JHEQ術後の患者不満足度に関与する因子の検討

富山大学整形外科　今西理恵子、松下功、元村拓、平岩利仁、木村友厚

【はじめに】人工股関節置換術（以下THA)術後に、股関節に不満を訴える患者に遭遇することがある。術前評価にて動作が悪い患者やBMIが高値の患者では、術後評価が低いことは報告されている。日本整形外科学会股関節評価質問票（以下JHEQ）は、2012年に作成された患者立脚型評価法であり、股関節の状態をVASで表すことで、患者の不満足度を評価することができる。

【目的】THA術後での患者不満足度に関与する因子を検討することと、術後の患者満足度を規定する術前因子の有無を検討することである。

【対象と方法】2012年12月から2017年6月の期間に当院にて人工股関節置換術（THA）を施行した患者のうち、大腿骨短縮骨切り術を追加した例、再置換術例、1年以内に両側とも手術を施行した例、評価に不備のあった例を除外した58例58関節と対象とした。術後1年時点での股関節の不満足度をあらわす、股関節の状態VASが10mm以下の47例を満足群、10mmを超える11例を不満足群として2群間での比較を行った。検討項目は、JHEQとJOAスコアを術前、術後1年に調査し、満足群と不満足群のそれぞれの項目を比較検討し、不満足に関連する因子を検討した。検定JMP13.0を用い、2群間でのJHEQ、JOAスコアにWilcoxon順位和検定を行った。術前因子には重回帰分析を行い、各検定の有意差は5%未満とした。

【結果】満足群は47例（男性6例、女性41例）不満足群は11例（男性3例、女性8例）であった。平均年齢はそれぞれ63.1±11.8歳、66.7±13.8歳（p=0.26）、平均BMIは24.1±4.5、25.4±1.5kg/m²（p=0．45）。原疾患は、満足群でOA35例、RA4例、骨頭壊死5例、その他3例、不満足群でOA11例であった（p=0.12）。手術日から退院までの平均日数は、満足群22.6±5.0日、不満足群23.4±5.7日（p＝0.65）、股関節の状態VASの術前中央値（中央値（25%-75%））はそれぞれ92（71-100）mm、88（81-98）mm（p=0.70）、術後1年中央値は0（0-2）mm、22（15-51）mm（p<0.0001）だった。

　JHEQでは、術前痛み中央値は満足群で中央値6点、不満足群で6点（N.S.）、動作ではそれぞれ4点、2点（N.S.）、メンタルはそれぞれ8点、3点（p＜0.05）とメンタルで有意差を認めた。術後1年では、痛みはそれぞれ28点、19点（p＜0.05）、動作は16点、8点（p＜0.05）、メンタルは24点、15点（p＜0.05）とすべての尺度で有意差を認めた。

　JOAスコアでは、術前疼痛中央値は満足群で10点、不満足群で10点（N.S.）、可動域はそれぞれ14点、15点（N.S.）、歩行能力は5点、5点（N.S.）日常生活動作は12点、10点（N.S.）であった。術後1年での疼痛中央値は満足群で40点、不満足群で40点（N.S.）、可動域は19点、18点（N.S.）、歩行能力は15点、10点（p＜0.05）、日常生活動作は18点、14点（p＜0.05）であった。

　重回帰分析では、術前メンタルのみが有意な独立変数であった（R²=0.067）。

【考察】術後の満足度を指摘する因子は術前JHEQメンタルのみであった。重回帰分析ではR²値は0.067と小さいため、規定因子としては弱いと考えられた。JHEQメンタルは、不安症などの精神疾患の影響を受けやすいと考えられ、他の因子を検討する必要がある。